

# 「女性論」プロジェクト研究報告

A Report of the Women's Studies Project

## 「女子大学卒業生のライフコースに関する調査」 を中心に

A Study on the Life course of Graduates of Women's University

梶山女学園大学人間関係学部教授

吉田 あけみ

Akemi Yoshida

梶山女学園大学現代マネジメント学部教授

東 珠実

Tamami Azuma

梶山女学園大学人間関係学部教授

小倉 祥子

Shoko Ogura

梶山女学園大学国際コミュニケーション学部教授

影山 穂波

Honami Kageyama

梶山女学園大学人間関係学部教授

藤原 直子

Naoko Fujiwara

### 1. 緒言

女性の高等教育に対する期待は、近年ますます高まってきている。2015年の女性活躍推進法の施行により、女性の活躍の場は広がりとつあり、特に職場における女性の活躍に注目が集まっている。しかしながら、女性たちの活躍の場は職場だけではない。とはいうものの、職場において女性たちが活躍しにくかったこともまた事実であろう。このような状況の中、女性活躍推進の機運を受け、その受け皿となるべく女性たちを育てる場としての女子大学において、キャリア教育は、ますます重要な意味を持つようになってきている。

本学では、「理論」「情報」「体験」を組み合わせ、社会で自立して生きていく力、活躍していく力を育み、自ら判断できる女性として、主体的に組織を支え、地域とかかわり、社会に貢献できる力の育成に注力している。人間的魅力、生き抜く力、共に生きる・人を活かす力を成長する人になるための力ととらえて、全学体制で取り組んでいる<sup>1)</sup>。いわゆる職業キャリアだけではなく、人生キャリアを見据えたキャリア教育という考え方を大切にしている。そのキャリア教育の取り組みの一環として全学共通科目「人間論」の中の「キャリア教育」のテキストとして使用してきた『私のキャリアマップ』<sup>2)</sup>について、

2011年に発行したものであるので、データの追記等をはじめとする様々な改定の必要が生じた。よって本年のプロジェクトの活動のひとつとして、『私のキャリアマップ』の改訂作業に取り組んだ。さらに、同様に「人間論」で使用していた『ロールモデル集 梶山発の女性たち』<sup>3)</sup>についても見直しをすることとした。この冊子は、本学の初期の卒業生から卒業間もない人まで、年代を幅広く調査し、そのライフスタイルを学生たちに提示したもので、多様な身近な女性たちの生きざまを伝える一助にはなっていたと思われる。しかしながら作成時にはまだ卒業生を輩出していない学部もあり、全学部を網羅したものではなかった。また、現役の学生たちにとっては、いくら先輩とはいえ、80代の女性では自分の祖母より上の世代であり、あまり身近な存在としてはとらえられなかったようである。そこでこの度、すべての学部を網羅し、世代も20代から40代に絞り込み、モデル数も増やした『ロールモデル集 梶山発の女性たち Vol. 2』<sup>4)</sup>を発行することにした。本年度の女性論プロジェクトの主たる活動は、この冊子の発行である。よって、本稿においては、その発行に際しての活動を報告することとする。

## 2. 研究会活動報告

火曜日の夜分の時間に、吉田あけみ宅にて、合計6回、研究会を実施した。以下にその内容を報告する。

第1回研究会 2017年4月25日

19時から22時 吉田あけみ宅にて

### 議題

- ・本年度の活動予定について  
『ロールモデル集 梶山発の女性たち Vol. 2』の作成
- ・「活動報告書」の作成
- ・『私のキャリアマップ』の改訂  
キャリア教育研究については、来年度以降、今後の方向性を検討する

第2回研究会 2017年5月30日

18時30分から22時 吉田あけみ宅にて

### 議題

- ・『ロールモデル集 梶山発の女性たち Vol. 2』について
- ・「女子大学卒業生のライフコースに関する調査」の対象者の選定方法、人数、調査時期、分担等

第3回研究会 2017年7月11日

18時30分から22時 吉田あけみ宅にて

### 議題

- ・『ロールモデル集 梶山発の女性たち Vol. 2』について
- ・「女子大学卒業生のライフコースに関する調査」の進捗状況の報告、調査対象者の選定の調整

第4回研究会 2017年10月31日

18時30分から22時30分 吉田あけみ宅にて

### 議題

- ・『ロールモデル集 梶山発の女性たち Vol. 2』について
- ・調査済みの結果についての報告、調査対象者の選定の再調整、執筆分担並びに原稿締め切りなどについての検討

- ・「活動報告書」について  
内容の検討並びに執筆分担について
- ・『私のキャリアマップ』の改訂について  
改訂箇所の確認と担当者の確認  
各自が担当したところは各自で確認し、メンバーの異動で担当者がいない部分については、吉田あけみが担当する
- ・来年度の活動について  
活動内容の検討は追ってすることとしプロジェクトの継続申請を提出することで合意

第5回研究会 2018年1月16日

18時30分から22時30分

- ・『ロールモデル集 梶山発の女性たち Vol. 2』について  
原稿の校正・確認
- ・「活動報告書」について  
原稿の校正・確認
- ・『私のキャリアマップ』の改訂について  
原稿の校正・確認
- ・人間学研究センター研究報告会について  
報告内容の検討

第6回研究会 2018年2月13日

- ・『ロールモデル集 梶山発の女性たち Vol. 2』について  
2校の校正・確認
- ・「活動報告書」について  
2校の校正・確認
- ・『私のキャリアマップ』の改訂について  
2校の校正・確認
- ・来年度の活動計画について

### 3. 「女子大学卒業生のライフコースに関する調査」

各学部各学科一名以上は対象にするように調整した。年代は、現在の学生たちからあまり年齢差がないようにということで、20歳代前半から40歳代前半までの卒業生を選定した。婚姻状態・子どもの有無等についても、出来るだけ多様なロールモデルを選定するようにつとめた。調査対象者の特徴は表1に示すとおりである。

基本的に、事前に質問項目や2013年発行の『ロールモデル集 梶山発の女性たち』を送付したのちに、大学などにて、1時間から2時間程度のインタビューを行い、その結果を『ロールモデル集 梶山発の女性たち Vol. 2』にまとめた。

主な質問項目は以下のとおりである。

- ①プロフィール
- ②ライフコース
- ③大学・学部への進学動機
- ④在学当時の学生生活
- ⑤卒業後活かされた学び・経験
- ⑥在学生へのメッセージ

今回の調査からは、それぞれの学部学科での学びを直接的に活かして活躍している人がいる一方で、さらなる学びを深めている人、学部の専門性が直接関係しているわけではないものの、大学での学びを活かして充実した日々を送っている人など、多種多様な女性たちの人生を垣間見ることができた。

### 4. 結語

今年度は、『私のキャリアマップ』改訂版<sup>5)</sup>と『ロールモデル集 梶山発の女性たち Vol. 2』の作成に追われ、女子大学の今後の在り方、

表1 調査対象者一覧

番号	氏名(記号)	年齢	学部	学科	職業・活動などの特徴
1	A氏	40歳代前半	生活科学部	生活環境学科	大学院を経て大学研究所特任講師
2	B氏	40歳代前半	生活科学部	食品栄養学科	栄養士
3	C氏	30歳代前半	国際コミュニケーション学部	国際言語コミュニケーション学科	会社員、育休中
4	D氏	30歳代前半	国際コミュニケーション学部	表現文化学科	国際結婚、趣味の演劇、海外在住
5	E氏	30歳代後半	人間関係学部	人間関係学科	会社員、育休中
6	F氏	30歳代後半	人間関係学部	人間関係学科	専業主婦
7	G氏	20歳代後半	人間関係学部	心理学科	大学院を経て臨床心理士、公務員
8	H氏	20歳代後半	文化情報学部	文化情報学科	システムエンジニア
9	I氏	20歳代後半	文化情報学部	メディア情報学科	アナウンサー
10	J氏	30歳代前半	現代マネジメント学部	現代マネジメント学科	公務員
11	K氏	20歳代前半	教育学部	子ども発達学科	大学院在学中
12	L氏	20歳代後半	教育学部	子ども発達学科	小学校教諭、育休中
13	M氏	20歳代前半	看護学部	看護学科	看護師

\*学部・学科名称は卒業当時の名称

女子大学におけるキャリア教育の意味、今女子大学に求められるものは何かというような根源的な問題に、ゆっくり向き合うことができなかった。現代における女子大学をめぐる状況は、共学か否かというようなことのみでなく、あらたなステージに入っている。トランスジェンダーをめぐる入学許可論争がアメリカにおいておこり、日本においても一部の女子大学においてはすでに何等かの方向性が示されている<sup>6)</sup>。また、共学大学においてもジェンダー研究や女子学生に向けての支援も高まってきている<sup>7)</sup>。このような状況下において、女子大学として女子学生へのキャリア支援をどのようにすべきか、女性のライフコースとどのようにコミットしていくのかというような課題は以前にも増して、重要課題になってきている。来年度以降は、これらの問題についても、議論を重ね、そのために必要な調査・研究を共同で行っていきたいと考

えている。

#### 注

- 1) 椋山女学園大学キャリア支援課「未来を創造する力を、成長する力へ結ぶ」2017年
- 2) 椋山女学園女性論プロジェクト『私のキャリアマップ』椋山人間学研究センター 2011年
- 3) 椋山女学園女性論プロジェクト『ロールモデル集 椋山発の女性たち』椋山人間学研究センター 2013年
- 4) 椋山女学園女性論プロジェクト『ロールモデル集 椋山発の女性たち Vol. 2』椋山人間学研究センター 2018年
- 5) 椋山女学園女性論プロジェクト『私のキャリアマップ』改訂版 椋山人間学研究センター 2018年
- 6) 高橋裕子「トランスジェンダーの学生を

めぐる入学許可論争とアドミッションポリシー—21世紀のアメリカにおけるセブンスターズの女子大学を中心に—  
『ジェンダー史学』第12号 ジェンダー史学会 2016年

7) 「朝日女性活躍フォーラム2017 女性が

輝くあいちの実現へ」朝日新聞 2017年11月30日 椋山女学園大学、金城学院大学のみならず、名古屋大学、名古屋工業大学、星城大学における女子大生に対する学びの支援などが多数紹介されている。